



きたしま田岡病院では下肢静脈瘤に対するレーザー治療を行っております。

- 下肢静脈瘤とは
- 血管内レーザー治療とは
- 治療手順概要
- 概算費用



■ 下肢静脈瘤とは

下肢静脈瘤は下肢静脈の弁不全により、静脈血が逆流し静脈圧が上昇、その結果静脈が伸展・屈曲・膨張・肥厚したもので、皮膚の色素沈着や潰瘍といった症状をきたすこともあります。成人の10～15%にみられ、年齢と共に頻度が増加することが知られています。



■ 血管内レーザー治療とは

当院では最新のレーザー機器(1470nm)を導入しました。従来のもの(980nm)より痛み、皮下出血が少なくなっています。

血管内レーザー焼灼(EVLA)と呼ばれる方法で下肢静脈瘤を治療する装置で、弁不全となった伏在静脈の血管内でレーザーを照射し、血管内を収縮・閉塞させることで血流を遮断し、逆流を阻止します。欧米では2001年頃から行われており、多くの臨床研究で従来の外科手術に比べ侵襲性が低く、重篤な有害事象もまれで、再疎通率も少ない方法とされています。

また、最新の機器により、治療の確実性と安全性がより高まります!!

レーザー治療後の合併症(1470nmのデータ)

痛み 殆どなし

皮下出血 1割以下

深部静脈血栓症、神経障害、皮膚のやけど
(前・当院ではなし)



血管内レーザー治療装置



■下肢静脈瘤を切らずに治す治療を行っています。

静脈瘤がある人は下腿のかゆみや皮膚炎のある人、あるいは脚のむくみのある人に対してエコー（超音波）検査で原因を調べます。

1. 脚の太ももの付け根からふくらはぎの内側までの血管が太くなり、逆流がある場合（大伏在静脈瘤）
2. 膝の裏側からふくらはぎの後ろ側までの血管が太くなり、逆流がある場合（少伏在静脈瘤）
3. 上記1や2のうえに、ふくらはぎにうねうねした血管があるが本幹からの逆流があまり無い場合
4. うねうねした血管があり本幹からの逆流がかなり強い場合

エコー（超音波）検査の結果、1、2、3は切らなくてもレーザーのみで治療が可能です。その場合、術後すぐに静脈瘤が消える人もおり、3ヶ月程度で徐々に消えていく人もいます。もし3ヶ月して少し静脈瘤が残ったとしても、硬化療法といって注射で治す方法があります。

静脈瘤や脚のむくみ、下腿のかゆみ、慢性の皮膚炎でお悩みの方はお気軽にご相談ください。



ELVeSレーザー1470

【仕様】

レーザー発生素子：ガリウム砒素半導体素子
レーザー波長・最大出力：1470nm±30nm・15W
ガイド光波長：635nm±10nm
寸法・重量：370W×85D×275H(mm)・8.5kg

（医療機器承認番号：22600BZX00093000）

ELVeSレーザーは、発振波長1470nmのレーザー光を発生する下肢静脈瘤治療用のレーザー手術装置です。光源である半導体レーザー素子は、高出力用で安定性の高いガリウム砒素（GaAs）を採用しています。

【治療方法】

静脈に光ファイバーというレーザー光を通す細い管を入れ、その先端からレーザー光を照射して、発生した熱により静脈を内側から閉じるという治療法です。（血管内レーザー治療といいます。）



■血管内レーザー治療手順概要

1. 治療当日

- ① レーザー開始予定の約1時間前に病院へお越しください。また、治療前の食事は軽めに摂っておいてください。
- ② 来院後すぐに血液検査、心電図検査、胸部レントゲンの撮影を行います。
- ③ 治療前に、血管の位置を再確認するためのエコー検査を行います。そして、マジックにてマーキングをさせていただきます。*尚、発熱や体調に変化のある方、血液検査、心電図、胸部レントゲン写真で、問題のある方は治療を延期させていただくことがあります。

2. 治療の実際

- ① 治療は処置室でも可能ですが、当院は手術場にて行います。念のために、点滴を行い、心電図モニターや血圧を測定しますが、緊張なさらなくてください。部屋は血管の収縮を防ぐために、最初は部屋の温度をやや高くしています。
- ② 準備が整いしだい治療を開始します。まず、脚の消毒を行い、シーツが かかります。
- ③ レーザー用のカテーテルを血管内に入れますが、点滴注射をするのと同様に、行います。注射部位に局所麻酔を行いますので、その時だけ少し痛みがあります。
- ④ カテーテルが入るとレーザー照射の前に、血管の周囲と皮下に組織の保護と治療効果を高めるための麻酔を行っていきます。
- ⑤ その後にレーザーの照射を開始しますが、目を保護するためにゴーグルをかけていただきます。
- ⑥ レーザーの照射時間は4分前後です。途中で痛みがあるようでしたら、遠慮しないで言ってください。
- ⑦ 結紮術が必要な方はそのまま引き続いて手術を行います。
- ⑧ すべての治療が終了すれば、傷口を閉鎖し、さらにその上から、防水効果のあるフィルムを貼ります。
- ⑨ 脚は弾性ストッキングの装着あるいは弾力包帯を巻きます。

3. 術後に行うこと

- ① 病室へ帰った後簡単なチェックを受け問題なければ、病棟内を10～15分歩行してください。これは手術直後の血栓(血管の中に血の塊ができること)を予防するために、大切なことです。
- ② 病室で2時間程度観察を行い問題なければ、帰宅していただきます。



■血管内レーザー治療手順概要

4. 自宅にて

- ① 当日は入浴は控えてください。弾性ストッキングあるいは弾力包帯は翌日 のよるまで装着しておいてください。シャワー時にはとり外してください。そのまま、寝ていただいて構いません。起床時には、装着してください。
- ② 弾性ストッキングは、治療後3週間は使用してください。レーザー照射部の 痛みの緩和には大腿部の圧迫がいいと云われていますので、できるだけ太ももに弾力包帯を巻いておいてください。

5. 日常生活

- ① 日常生活、家事労働の制限は特にありません。
- ② 事務系の仕事は翌日から、肉体労働、長時間の立ち仕事は3日目から構いません。
- ③ サウナ、加圧トレーニング、長時間の正座は1ヶ月後から行ってください。

生活内容 開始時期

家事労働を含む日常生活手術当日から
車の運転翌日より(近距離であれば、当日より)
事務系の仕事翌日から
シャワー2日後より
肉体労働、立ち仕事3日後より
自転車3日後より
入浴(瘤切除を行った場合)2日後より(5日後より)
温泉、プール7~10日後より
旅行2週間後より(近距離なら1週間後より)
スポーツ、ジム2週間後より
長時間の正座1ヶ月後より
サウナ、加圧トレーニング1ヶ月後より

*手術の翌日が1日後。あくまで目安であり、経過によって日数は前後します。

レーザー治療後の合併症

血管内レーザー治療は安全な治療です。当院では、術前あるいは術中エコーできちんと確認・評価を行い、きちんと手順に沿ってレーザー治療を行っておりますので、重篤な合併症が起こることはありません。しかし、痛みや皮下出血などの重篤ではない合併症は時々発生します。痛みに対しては鎮痛剤を頓服で処方しておりますが大半の人は必要ないようです。皮下出血はかなり認められ外見的に痛々しい感じがしますが、これにより痛みを感じるわけではありません。また、3週間もすれば、ほぼ消滅しますし、以後は全くわからなくなりますので、心配ありません。その他、血栓(血の塊が出来ること)、神経障害、やけどなどはきちんと注意することで防ぐことが出来ます。われわれは患者さんのために細心の注意をはらって治療を行っておりますので、ご安心ください。

■担当医 血管外科・静脈外科 中井義廣(なかいよしひろ)



■日帰り手術費用概算

例:60才男性 社会保険3割負担の場合

日帰りの場合の支払総額概算 約59,000円(片側だけの場合)

【内訳】

- ◆日帰り手術料 約45,000円 ◆諸検査・判断料 約4,000円 ◆投薬料 約1,000円
- ◆一日入院料(4人部屋) 約9,000円

※上記金額はあくまで目安です。症状により治療範囲や検査、投薬の内容が変わります。

※日帰りですが、術後は病室にてお休みいただきます。(手術当日入室、当日退院となります。)

※個室希望される場合はご相談ください。

上記金額に5,000(個室)~12,000円(特別室)を加算してください。

※ご希望により1泊2日(手術後翌日退院)される場合は別途お問い合わせください。※支払総額は増加します。

諸注意

日帰りの手術ですが、あらかじめ外来受診の上、医師の判断が必要です。

外来診察当日に手術を行うことはできません。

また、診断の結果、手術を行わず他の治療法をすすめる場合があります。

患者様にとって最良の治療方法をご案内させていただきます。

診察ご希望の患者様は下記までお問い合わせください。

下肢静脈レーザー実施医 中井義廣 の診察日をご案内します。



徳島県板野郡北島町鯛浜字川久保30番地1
きたじま田岡病院

TEL 088-698-1234
FAX 088-698-9988
Email kitajima.info@taoka.or.jp
ホームページ <http://www.kitajima-taoka.or.jp>